EVENT NEWS RELEASE

立命館大学

2026.2.16

報道関係者　各位　　＜配信枚数 2 枚＞

■開催案内■

立命館土曜講座（2026 年 3 月）

開催日程　：　2026 年 3 月 7 日（土）・28 日（土）10 時 00 分～11 時 30 分

開催方法　：　ハイブリッド講座（末川記念会館・Zoom ウェビナー）

2026 年 3 月の立命館土曜講座は、立命館大学コリア研究センターと立命館大学地域健康社会学研究センターの企画として、ハイブリッド形式（末川記念会館・Zoom ウェビナー）で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

■立命館土曜講座(2026 年 3 月)

(1) 朝鮮学校から考える日本のダイバーシティ

日時 ： 2026 年 3 月 7 日（土） 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 ： 立命館大学映像学部 教授/コリア研究センター長 宋（そん） 基燦（ぎちゃん）

(2) 支援する/されるを超えて―災害復興の現場から見た市民社会の力

日時 ： 2026 年 3 月 28 日（土） 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 ： 立命館大学共通教育推進機構 教授/サービスラーニングセンター長 山口（やまぐち） 洋典（ひろのり）

開催方法 ： ハイブリッド講座（末川記念会館・Zoom ウェビナー）
内　　容 ： 別紙参照
聴 講 料 ： 無料
定　　員 ： 末川記念会館 180 人、Zoom ウェビナー400 人
※実施前日 12 時 00 分までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。
申込方法 ： 立命館土曜講座の WEB サイトよりお申し込みください。
https://www.ritsumei.ac.jp/doyo/
主　　催 ： 立命館大学衣笠総合研究機構
そ の 他 ： 文字通訳を配信しています。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ

●内容についてのお問い合わせ先
立命館大学衣笠総合研究機構　担当：尾崎・堀　　TEL.075-465-8224

別 紙

■立命館土曜講座(2026 年 3 月)

(1)朝鮮学校から考える日本のダイバーシティ

日時 ： 2026 年 3 月 7 日(土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 ： 立命館大学映像学部 教授/コリア研究センター長 宋 基燦

講師による内容紹介 ：

日本政府の高校無償化および幼保無償化政策からの差別的排除、さらに少子化の影響により、近年、朝鮮学校は存続の危機に直面している。しかしそれでもなお、朝鮮学校は北海道から九州に至るまで、幼稚園から大学に相当する課程までを含む独自の教育システムを構築している日本最大の「外国人教育組織」として存在し続けている。日本にある教育機関として、これまで朝鮮学校は数多くの卒業生を輩出してきた。近年では、映画『国宝』によって日本映画の新たな地平を切り拓いた李相日監督のように、多くの朝鮮学校卒業生が日本社会の一員として、さまざまな分野で活躍している。こうした事実からも、日本社会における朝鮮学校教育の公共性は本来、正当に評価されるべきである。さらに、日本の学校教育の歴史を振り返れば、公教育の枠組みの中で朝鮮学校が運営されていた時期も存在していた。しかし、そうした歴史的経緯にもかかわらず、現在も続く朝鮮学校に対する差別的排除は、日本社会における朝鮮学校の公共性を否定するものとなっている。その背景には、朝鮮学校と北朝鮮との関係をめぐる日本社会の「懸念」がある。本講座では、朝鮮学校の歴史をあらためて振り返り、こうした「懸念」に対する異なる理解の可能性を提示する。あわせて、朝鮮学校の教育実践に関する人類学的研究の成果をもとに、日本社会において朝鮮学校が有する公共性を、ダイバーシティの観点から明らかにする。

(2)支援する/されるを超えて―災害復興の現場から見た市民社会の力

日時 ： 2026 年 3 月 28 日(土) 10 時 00 分～11 時 30 分

講師 ： 立命館大学共通教育推進機構 教授/サービスラーニングセンター長 山口 洋典

講師による内容紹介 ：

阪神・淡路大震災以降、日本では災害復興の現場に多くの市民が関わってきました。本講座では、講師自身が復興支援や市民活動に携わってきた経験をもとに、災害後の「復興」とは何を意味するのかを考えます。その際、住宅や社会基盤の復旧にとどまらず、人びとの心身の健康や地域のつながり、役割や誇りの回復がいかに重要であったのかに着目します。

本講座では、講師の在学中に発生した阪神・淡路大震災における立命館大学ボランティア情報交流センターの活動をはじめ、東日本大震災や平成 28 年熊本地震での立命館災害復興支援室を通じた学園の取り組み、さらにサービスラーニングセンターによる令和 6 年能登半島地震への対応など、具体的な事例を取り上げます。これらの事例を通して、支援する側／される側という単純な構図を超え、市民が関わり合うことが、地域や社会における健康で文化的な暮らしの実現にどのような影響をもたらしてきたのかを考察します。災害を「特別な出来事」としてではなく、私たちの日常や社会のあり方を問い直す契機として捉え直していただければ幸いです。

■立命館土曜講座 ＜WEB サイト＞ https://www.ritsumei.ac.jp/doyo/

1946 年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。